

シニアネットワーク連絡会セッション

対話10年の報告と新しい方式について

Reports of the 10-year steps and the new trial on dialogue between students and seniors

(2) 世代を跨いだ発展型対話会のあり方

(2) The discussion on a new type dialogue over the generations between students and seniors

*大野 崇¹¹日本原子力学会シニアネットワーク連絡会

1. はじめに

シニアネットワーク連絡会（SNW）の主要な活動の一つである「学生とシニアの対話」は、経験を積んだ原子力専門家のOBたちとこれから社会に飛び立つ学生たちの50歳の年齢差を超えた対話です。

この活動は、SNW設立の1年前から始められ、現在までの12年間、途切れることなく続けてきましたが、東日本大震災から6年が過ぎようとしており、当時の中学生が大学生になる時代を迎え、従来の対話会方式に加え、新たな対話会も加味して変質すべき時を迎えています。そこで、本講演では「世代を跨いだ発展型対話会のあり方」と題し、新たな対話会の在り方・充実を模索してみたいと思います。

2. これまでの対話会

対話会は、我々シニアがそれぞれの道で培ってきた技術専門家としてのマインド、人生経験を積んだ人としてのマインドを学生に伝え、原子力系・工学系学生には原子力産業界で活躍するインセンティブを醸成して原子力産業界に貢献してもらいたいと思っています。また、教育系、文科系の学生には事実に基づくバランスのとれたものの見方を醸成し、国民レベルの向上に寄与してもらいたいと思っています。この趣旨に賛同いただける大学や高専の先生方の授業に対話会を設けていただき、先生や学生の希望に配慮しながら、双方向性のある効果的な対話を進めるように工夫してきました。

- ① 多くの大学、高専では基調講演方式を取ってきました。基調講演の後、シニアと学生がグループに分かれて対話するというものです。各グループは、少数のシニアと複数の学生からなります。基調講演は、「原子力をどう考えるか」、「エネルギー問題と日本社会」など、授業との関係から先生がテーマを決め、それについてシニアが講演を行うものです。グループ対話は、「エネルギー」、「原発の安全性とリスク」、「放射性廃棄物の処理・処分問題」、「原子力業界の将来と就職」など学生が主体となって事前に選定し、それについて話し合うものです。
- ② 学生が不得意とする最近の世の中の状況を伝えるという点では成果を上げていますが、課題は、双方向性対話、対話テーマが限定される点が挙げられます。学生がファシリテータとなって進める、シニアは聞き役に回る、事前に学生から質問を出してもらいシニアがメールで答えるなど、双方向対話に努めていますが、どうしてもシニアから学生への一方方向性対話になりがちな点です。また、テーマごとにグループが分かれますので対話テーマが限定されることになります。これについては、京都女子大学では少人数なこともあり基調講演について全員が参加して自由討論を行う形式にしたり、東北大学ではテーマ別にグループを固定し学生が好きなグループを選んで移動する「テーマ別アイランド」方式を採用するなどの工夫を行いました。

3. 発展型対話会

本年度、関東複数大学対話会で行われた対話方式を紹介します。「日本原子力学会学生連絡会（代表矢野亮太郎）」が企画して行われました。パネルディスカッション形式で、複数テーマについてシニアがプレゼ

ンテーションを行った後、学生とシニアとでパネルディスカッションを行うというものです。シニアと学生参加者の間に知識・経験面での差が大きいということを踏まえた発案です。10分/人程度の基調講演を行った後パネルディスカッションを2回行い、終了後の懇親会で、学生の最も関心のあるシニアの経験談を交えた会話をし世代間の垣根が取り払われました。

- ① 参加学生は原子力系（東大、東工大、都市大）に加え、教員志望（学芸大）の学生も加わり、文系、教育系、女子大の期待やシニアの特性も踏まえたものとして以下のようなテーマが取り上げられました。
 - ・ 経営者の立場からの話
原子炉の60年利用についてどう思うのか等
 - ・ 東電福島1F建設当時の話について
当時は基本的に米国の原子炉のローカライゼーションとして設計していたと思われるが、それが最終的にどう影響したかなど
 - ・ 過去のリスクコミュニケーションの話
最近、社会とのリスクコミュニケーションが課題になっているが、日本の原子力界の黎明期にそういったコミュニケーションはどのようにして行われていたのか
 - ・ 会社内でのキャリアパスについて
最初から最後まで技術者であった方や、最初は技術者だけでも最終的には経営的な仕事に就いた方の会社内での話
- ② これまでの対話会では具体的な技術の話は授業などでも聞く機会があるため、社会経験的な話の方が好ましいという学生の意見もありシニアとして模索していたところです。この関東複数大学における進め方は事前準備や当日の運営など、負担があるもののこれまでの課題をある程度解決するものとして今後の対話活動方式の一方式を示唆する発展型対話会といえます。実際、対話に幅の広がりや学生に積極参加の姿勢が見られ中身の濃い対話会で、大学、高専の事情に応じて可能な場合は今後取り入れていきたいと思います。

3. さらなる対話活動の充実

SNWはそれぞれの分野で活躍された経験豊富な多士済々のOBよりなります。その経験が少しでも社会の役に立てばというのが活動の主旨であり、どうしても大学の中を通じた協力を中心となり、それには先生方との密接な連携が欠かせません。しかし、さらに大学の中も越えて対話活動の拡大に努めたいと考えています。そのためには以下のようなことも考えてゆきたいと思っています。

- ・ 教育現場のニーズ把握とさらなる協力
- ・ 「草の根活動」への協力
- ・ 各支援機関とタイアップし施設見学に伴う対話活動。（既に廃棄物処理施設見学はNUMOとタイアップして実施）

*Takashi Ohno¹

¹SNW